

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270102678		
法人名	有限会社 勝法		
事業所名	グループホーム 中川のより道	ユニット名	
所在地	長崎県長崎市の中川1丁目7番14号		
自己評価作成日	平成27年12月23日	評価結果市町村受理日	平成28年2月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成28年2月2日	評価確定日	平成28年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域住民との連携が年を重ねるごとに深まり、助けあう互助の関係が構築できている。バリエーション等の手法を使い、認知症の利用者の対応を工夫している。認知症ケアの前提として、利用者の健康の維持、持病のコントロールが重要と考えており、看護師が中心となって、病気の悪化や体調の変化に細心の注意を払っている。 「生活の場」である、グループホームにおいて、職員が介護技術を発揮し、衣食住を支えている。上記の取り組み等から、理念である『のんびり ゆったり そのひとらしく』の実現ができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“中川のより道”に到着すると、伊良林保育所の子供達が訪問して下さっており、ご利用者の方々の笑顔が溢れていた。開設以来、地道に地域の一員としての関わりを続けており、保育園児との交流と共に、地域のボランティアの方々が、日本舞踊やアコーディオン演奏、三味線演奏、皿回しなどの演芸を敬老会で披露して下さい。日々の生活では、ご利用者の生活歴を把握しながら、日々の役割を見出す工夫を続けており、洗濯物たたみや裁縫、その他の手仕事などの家事をして頂いている。ご利用者の思いを傾聴する時間も作り、ご本人の「自分史」を作る取り組みも始まっている。長崎市ならではの路面電車に乗り、職員と一緒に買い物に行かれる方もおられ、今後ご利用者の方々が生きがいを持ち、自由に楽しめる支援を続けていく予定にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいたケアが実践しやすいように、事業所独自の『身体拘束の定義』を、職員全員で話し合い定めている。理念に即さないケアについては、ヒヤリハット等にあげ、なぜそのような行動をとったか、職員全員で検討を重ね、理念に基づいたケアが実践できるように努力している。	「のんびり ゆったり そのひとらしく」という理念を掲げている。新人職員にも理念を説明し、ホーム長や先輩職員が日々のケアの中で指導を行っている。理念の中の“そのひとらしく”も大切に、ご本人の生活リズムや希望を反映した生活になるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に広報誌を発行する。来所時や散歩時に地域の方が利用者に話しかける。体調を気にかけてくれる。古新聞・古布・紙オムツ・レクリエーションの材料、などの寄付を地域の方がしてくれる。	代表(管理者)は地域の役職を引き受け、班長会議や様々な会議に参加している。防犯連絡所や救急サポートステーションも受諾しており、開設以来、地域の一員としての活動を行っている。保育園児との交流も続けており、ご利用者の楽しみになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて認知症の利用者の特性や介護方法を地域の方に説明している。認知症の対応法を見学者等にも話している。見学の方の介護の相談にのることもある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、行事やレクリエーションの内容、利用者の健康管理の具体的方法、ヒヤリハットの内容・件数の報告を行い、参加者からの意見を基に、サービス向上に生かし、結果を運営推進会議にて報告している。	2か月に1回、第3水曜日に開催しており、ご利用者も日々の暮らしの感想等を伝えて下さっている。ヒヤリハット報告への評価も頂き、介護計画やケアに活かしている事を報告している。参加者の検討も続けており、小学校の校長先生も参加して下さった。	会議を通して、ホームの取り組みや役割等を理解して頂いている。これからも地域の今後(地域の課題やあるべき姿など)を共有し、検討すべきテーマを具体化する事で、更なる有意義な会議にしていく予定である。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターを通じて、運営推進会議の議事録や広報誌で、事業所の取り組みを報告している。	長崎市地域支援事業『生活・介護支援サポーター事業』からボランティアの受け入れをしたり、地域包括主催の『高齢者見守りネットワーク会議』に参加している。交流をしている保育所も市立であり、保育所の所長との情報交換も密に行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回、身体拘束廃止委員会を開催し、年2回、身体拘束廃止のための内部研修を行っている。事業所独自で具体的な身体拘束の定義を作成し職員で共有している。	ご利用者個々の喜怒哀楽に寄り添っている。理念に相応しくないケアは「ヒヤリハット」等にあげ、職員個々の行動分析を行い、職員全員で検討を重ねている。転倒リスクも家族と話し合い、見守りを行うと共に、ロボット介護機器も使用し、早期対応に繋がっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回、高齢者虐待防止委員会を開催し、年2回、高齢者虐待防止のための内部研修を行っている。職員の意識の向上に努め、日々の介護が虐待に繋がらないように注意している。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	NPO法人の市民後見人の会の方から、成年後見制度を学び、必要時は支援を依頼している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、利用者と家族に詳しく説明し、疑問や不安が残らないようにし、同意を得ている。解約のときも、同様に対応し、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族との面談の時間を大切に、隠れた希望があるのではないか、という気持ちを持って臨んでいる。主介護者以外の家族や親戚の話にも耳を傾け、利用者以外の介護について等の、よろず相談に応じることもある。	日々の暮らしぶりや健康状態を文書で報告し、面会時や家族会の時などに意見や要望を伺っている。終末期などへの要望も伺い、かかりつけ医と連携を密に行いながら、ご利用者の状況に応じたケアを検討し、ホームでの看取り支援が行われた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は、日頃から、利用者の様子や介護の方法について、積極的に発言してくれており、職員ひとりひとりが、よりよい介護について考える、といった風土が構築されている。	様々な行事を行っていく事が、ご利用者の生活の質の向上や社会参加に繋がると考えており、職員が積極的に提案を出せる職場環境(風土)が作られている。資格取得や研修参加に関しても、年々職員の向上意欲が高まり、「学びたい」という思いの職員が増えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休假日の希望は、ほぼ叶えられている。誕生日には、休暇と手当を与える。職員各自のレベルの研修や学習への参加を支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立てて、月1回、職場内での研修を行っている。外部の研修にも職員は積極的に参加し、数多く受講している。また、資格取得の学習にも熱心に取り組んでいる。介護プロフェッショナルキャリア段位制度の段位取得にも取り組んだ。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の会議等を通して、同業者と切磋琢磨する中で、職員の知識の向上、情報交換に努めている。他事業所の祭りに招かれ、外出行事として参加した。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者や家族の話から、生活歴、嗜好、その他の情報を収集し整理し、職員全員で共有し、会話の糸口としている。また、他利用者との仲を取り持つ工夫をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時に、利用者を深く観察し、家族と密に連携をとることで、課題を明確にし、早めに解決できるように努力し、より早く信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	歯科医の往診や歯科衛生士による口腔ケアの定期導入、利用者の身体状況に応じた福祉用具等の提案を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ひとりひとりの役割を見出す工夫をしており、日々、洗濯物たたみ、裁縫、その他の手仕事などの家事を協力してもらっている。職員が利用者に関りごとの話をきいてもらう場面もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と協力して、利用者を支える、といったチームケアの関係を日頃から説明している。具体的には、家族と利用者との外出が安全に行えるように、要望があれば外出に同行することもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の面会をグループホーム全体で歓迎している。ゆったりとした、やり取りができるように雰囲気作りを心がけている。思い出話を教えてもらい介護に生かすこともある。職員と面会者とのコミュニケーションも大切にしている。	ご利用者の生活歴を把握し、ご利用者の自宅周辺や生まれ育った町へのドライブ、法事への外出支援等をしている。馴染みのお祭りである「おくんち」にも出かけ、車の中から見学されている。知人等がホームに訪問された時は写真を撮影し、家族に郵送している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の「一緒に生活する仲間」として、お互い労わり合いながら、生活できるよう利用者だけの会話等を大事にしている。職員がキーワードや歌を用いて、共有できる場面の設定をするよう心がけている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、家族と連絡が必要となることもあり、差し入れがあったり、事業所も介護相談等を受けたりする。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の話をよく聞き、思いや意向を把握するように努めている。利用者の家族や友人から、情報を得ている。バリテーションの手法を使って、思いを探ることも取り入れている。	ご利用者の思いを大切にされており、食べたい物や行きたい場所等を教えて頂いている。ご利用者の要望等は記録に残し、職員間で共有している。家族との面談も毎月行うように努めており、遠方の家族とも電話やメール、ビデオ等を活用し、情報交換をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との会話、家族や友人の話、かかりつけ医等から、生活歴や暮らし方を把握するようにしている。新たに『聞き書き』の手法を使い、利用者の生活歴を知る方法として活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、ゆっくり会話するように努め、日常生活の様子を細かく観察し、また、ヒヤリハットの情報から、現状を把握し、職員間で共有することを心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のカンファレンス、月1回の会議にて、職員間で介護について検討するとともに、家族との面談、その他の関係者との話し合いの結果を介護計画に生かしている。	“自立支援”を大切にされている。体操やリハビリ等と共に、洗濯物たたみや食材の下ごしらえ、新聞折り、洋服のほつれ縫い、ぞうきん縫い等の役割と共に、散歩等も盛り込まれている。ヒヤリハット内容も計画に活かし、安全面での配慮も続けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、「生活チェック日誌」に記録しており、利用者の発言や様子、具体的な介護と利用者の反応が、わかるように記載し、職員間で共有している。月1回のケアカンファレンスにて、個々の利用者の介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的に踊りのボランティアが来訪してくれ利用者が楽しんでいる。訪問美容師が、利用者の誕生会に手品を披露してくれた。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣住民から、古新聞、古布、食材、レクリエーションの材料等の提供があったり、地域の行事に招待を受けたりして、顔なじみの関係である。常日頃から、利用者の体調を気遣うなどしてくれる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	きめ細かい報告で、かかりつけ医と信頼関係が構築できている。また、かかりつけ医、家族、管理者、看護師とで面談の機会を持っている。	職員の観察力も高まり、日勤帯での早期対応ができています。月2回の往診や訪問歯科もあり、ホームの看護師が主治医との連携を図っている。日々の健康状態や暮らしぶり、受診状況は毎月のお便りで家族に報告し、家族の心配や不安も把握するように努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職からの報告や、看護師自身が観察したことを総合的に判断し、異常を早期発見し、受診につなげている。かかりつけ医の指示のもと、グループホーム内で、可能な治療を行うこともある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に健康状態を書面で渡し、注意事項に関しては、口頭にて利用者の情報を伝えている。退院時には、かかりつけ医に報告するとともに、今後の介護について相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	予測される状態の変化を、かかりつけ医を通じて、家族に説明し、対応について話し合いを持っている。家族の介護に対する希望をきき、共通認識を持つようにしている。終末期に入ってから、さらに密に話し合いの場を持つようにしている。	入居時に「終末期に向けたケアの指針」を説明しており、家族同士の話し合いもして頂くように努めている。終末期に向けて急変時の連絡方法や介護方針を確認し、主治医との連携も行い、誠心誠意のケアを続けている。家族もアイスやカステラ等、本人の好物や食べやすいものを持参して下さり、一緒に過ごせる時間を大切にされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	自衛消防隊宿泊研修に、職員が全員参加している。看護師が職員に対し、体調の急変時の初期対応について説明し訓練を行っている。日頃から、急変時の観察項目についても詳しく説明しており、職員はよく観察し、異常な徴候を報告してくれる。消防局の救命講習を受け、救急サポートステーションでもある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	職員全員が、消防学校にて、自衛消防隊宿泊研修を受けた。さらに、複数回受講させ、防災意識の向上、災害時の対応法を身につけている。初期消火の消火器操法の大会にも、2年連続で参加した。地域住民にも災害時の協力を依頼している。	運営推進会議の時に、長崎市中央消防署員から防火訓練時の講話をして頂いている。25年9月から毎月の訓練等が行われ、4月には、消防署、ご利用者、家族、地域の方、市職員、地域包括職員、サポーターの方等が参加して下さっている。災害に備え、個人毎の非常持ち出し袋を準備しており、土嚢、簡易トイレ、3日分程度の食料と水等も準備している。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内容によっては、利用者だけに聞こえるように話をするなど留意している。例えば本人の居室で、1対1で、話すようにしたり、尿便失禁は職員だけに、わかる言葉を取り決めて使用している。	トイレ誘導時は小さな声で声かけしたり、入浴時の羞恥心を考慮し、タオルで覆うなどの配慮をしている。年長者に対する礼儀を大切にしており、「ボランティアとプロの違い(責任)」「根拠を持って働くこと」「利用者の事を考えて行動すること」等を職員に伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「～はどうですか?」「～はいかがですか?」などの言葉がけを多用し、利用者の思いや希望を、表情や様子から把握するようにしている。職員は1対1でゆっくり話す機会を持ち、利用者の声に耳をかたむけるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースや、本人の生活リズムを優先することが、介護の基本であると考えている。その理念にのっとり、個別対応の介護をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな装いをさせていただくことを基本に、髪の毛を整える等を、きちんとすることを徹底している。利用者の希望の服を購入したり、外出や行事の際は、化粧をし、マニキュアを塗ったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食べたい物の希望をきく、食材の買い出し、下ごしらえ、味見、後片付けなどに、ひとりひとりのちからに合わせて、協力していただいている。ケーキや菓子を、利用者の好みに応じて、食べやいように、手作りすることもある。	週3日(入浴日)は宅配(おかず)を利用し、他は職員が手作りしている。ご利用者と一緒に買い物に行き、食べたい物を聞きながら献立に盛り込んだり、下膳やテーブル拭き等も手伝って頂いている。職員も一緒に食事をされており、団欒の時間になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下機能に応じた食形態はもちろんのこと、食欲のないときや、食の好みに関しては、食べやすいもの好きなものなど、代替食を提供する。その他、食器や盛り付けの工夫も行っている。栄養も大事であるが基本的には本人の好きなものを楽しく食べてもらっている。家族の面会時は、希望で居室で食事することも多い。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医や歯科衛生士の指導のもと、利用者の口腔の状態に応じて、ブラシや歯間ブラシ、スポンジブラシを使っている。必要な利用者は、口腔用ウエットティッシュを使用し、全介助にて口腔ケアを行っている。自身で歯間ブラシを使っている方もいる。毎日、昼食前には、口腔体操、発声練習を行っている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パットを使用している利用者も、トイレで排泄できるように、排泄リズムの把握と、トイレ誘導の工夫をしている。定期的な誘導以外にも、様子を見てトイレに、お連れしている。日中の運動、夜間の保温などにも気を配っている。最小限のパットの使用を心がけている。アドバイザーを交えて、本人に合ったパットリハビリパンツを検討して選んでいる。	布の下着を着用している方もおられる。職員は排泄の自立支援を大切にされており、生活リズムを整え、排泄リズムを把握する事で、日中のパッド使用の枚数が減ったり、夜間のパッド交換のタイミングがわかり、衣類の汚染が減った方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取や牛乳、乳酸菌飲料、ヨーグルト、野菜ジュース、果物等を取るようになっている。また、繊維質やこんにやく、味噌、漬物などの発酵食品の摂取を心がけている。毎日、昼食前の運動も継続しており、利用者のペースで参加してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一番風呂、しまい湯、時間帯、外出前後など、利用者の希望を聞いて、入っていただいている。お湯の温度については、職員が、利用者の、それぞれの好みを把握し調整している。入浴中に思いつくことを話してもらい、歌を歌う、などを楽しめる働きかけをしている。	浴室のリフトを利用し、安全に入浴されている。浴室に洗える畳を敷き、転倒時の対策も取られている。朝から夕方までの入浴が可能であり、入浴時は職員と会話を楽しめたり、菖蒲湯や柚子湯で季節を感じて頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冬場は、湯たんぽを利用している方が多く、好評である。就寝、起床は利用者の希望時間としている。眠れない時は、暖かい飲み物を出す、職員が話し相手になる等の対応をしている。家族と相談して、アロマセラピーを活用することもある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、常日頃から、看護師から、知識を得、薬の目的や薬品情報を把握している。看護師は、かかりつけ医と連携をとり、利用者の状態を、文書にて伝えるときにも、服薬の必要性についても話し合いをもっている。また、薬剤師に薬の作用副作用、与薬上の注意等を積極的にきくようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	血洗い、洗濯物たたみ、縫い物、新聞折り、箱作り等、家事的役割を持っていただいている。また、他の利用者をいたわる、うたを歌う、自分史を読む、人形の世話、雑誌を眺める、自室に写真を飾る、家族の写真を眺める、筆筒の片づけをする等、利用者ごとの生きがいを自由に楽しめる支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者の希望に沿って、好きな場所にお連れするようにしている。リフト車を導入することで、歩行が困難な利用者についても、外出支援できるようになった。生まれ育った町、以前住んでいた土地、好きな風景を見ることが出来る場所、にお連れした。	代表(管理者)とホーム長が主に外出支援を担っており、中華街のランタンフェスティバル、帆船まつり、水源地での蛍見物、中島川の紫陽花まつり、桜の花見、おくんち見物など、季節に応じた外出をされている。路面電車に乗り、職員と一緒に買い物に行かれる方もおられる。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者によっては、お金を持つことで、精神的に落ち着く場合もあり、家族と話し合いの上、決まった額を持っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの贈り物と一緒に写真を撮り、家族に送ったり、お礼の電話を掛けたり、お話できる配慮をしている。また、家族からの手紙を部屋に飾り、いつでも見ることができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冬場に温度管理がしやすい様に、ガスファンヒーターを新たに導入した。利用者が移動しやすいように、食堂の家具の配置を変更した。加湿器を利用し、温湿度計で確認しながら、居室や居間の環境管理をしている。利用者の書道などの作品を飾ったり、季節に合わせて、花を飾ったり、飾り物のインテリアを変えている。	リビングは2階にあり、外の風景を眺めることができる。リビングで過ごされる方が多く、テーブルの配置を変更し、ご利用者同士の会話ができるように工夫している。リビングには新聞もあり、毎日、時事の話題を提供したり、リビングの花をきっかけにして季節の話題に発展する時もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が、隣の席に座ることができるよう配慮しているが、その時々の様子で、ソファで一人で、くつろぐこともできる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの場所や名所の写真を額に納めて飾る、山や木の風景が好きな利用者の部屋に森林風景のポスターを飾る、家族と一緒に写った写真、行事の写真、本人の似顔絵、好きな芸能人のポスター、季節感ある飾り付け等。	2階と3階に居室があり、エレベーターなどで行き来されている。寝具やタンス、椅子、座布団等と共に、仏壇や位牌、家族の写真等の大切な物も持ち込まれている。大好きな歌手のポスターや写真などを飾っている方もおられ、ご本人が自由にレイアウトされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所を、分かりやすく明示している。玄関の下駄箱横にベンチを置き、ゆっくり座って靴を履き換えることができるように、している。		